

くり

—— 発病・加害時期
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地					発芽		開花				収穫		
実炭そ病 モノゴマダラノメイガ クリシギゾウムシ キクイムシ類 コウモリガ カツラマルカイガラムシ カミキリムシ類 クリタマバチ													

胴枯病

留意事項

- 1 害虫（キクイムシ類、カミキリムシ類など）の食入跡や傷口から病原菌が侵入することが多い。
- 2 早期発見、早期処理に努める。
- 3 密植園や樹勢が衰えた園では発病が多くなる。

防除方法

- 1 苗木は無病のものを用いる。
- 2 なるべく浅植えにする。
- 3 凍害や乾燥を防ぐため高接苗の使用、根際への土盛り、幹へのわら巻き、施肥の適正化などを図り、健全な樹体に育てる。
- 4 被害枝をせん定し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 日焼け防止のため、石灰乳などを太枝や幹に塗布する。
- 6 病患部を削り取り下記の薬剤を塗布する。
 - ・ [トップジンMペースト](#) ①【原液 病患部削り取り直後／3回】

実炭そ病

留意事項

- 1 早生種に発病が多い。
- 2 クリタマバチ、クリイガアブラムシの加害は発病を助長する。

防除方法

- 1 枝葉を適度にせん定し、密生を防ぐ。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [ベンレート水和剤](#) 1 【2,000～3,000倍 裂果前(14日)／4回】

モモノゴマダラノメイガ

留意事項

- 1 パダンSG水溶剤は、眼及び皮膚に強い刺激があるので注意する。

防除方法

- 1 果実収穫後、いがを集めて、ほ場外に持ち出し処分する。
- 2 幼虫ふ化期（8月中～下旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [フェニックスフロアブル](#) 2 8 【4,000倍 前日／2回】
 - ・ [ディアナWDG](#) 5 【10,000倍 前日／2回】
 - ・ [エルサン乳剤](#) 劇 1 B 【1,000倍 14日／4回】
 - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 1 4 【1,500倍 裂果前／3回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000倍 7日／3回】

クリシギゾウムシ

留意事項

- 1 防除方法の「1」はクリミガと共通である。クリミガは地表面近くでまゆを作って越冬する。

防除方法

- 1 冬季に、いが、落葉、せん定枝、枯草などを、土中深く埋没するなどして園を清潔にする。
- 2 成虫発生期（9月上旬～10月上旬）に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2,000倍 14日／5回】
 - ・ [マブリック水和剤20](#) 劇 3 A 【2,000倍 7日／2回】
 - ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 4 A 【2,000～4,000倍 7日／3回】

キクイムシ類

留意事項

- 1 薬液が葉にかからないようにする（薬害）。
- 2 ガットサイドSとサッチューコートSセット、トラサイドA乳剤は同一成分MEPを含むため、樹幹処理は合計1回まで。

防除方法

- 1 寒害や日焼けを起こさないようにし、樹勢をよくする。
- 2 越冬成虫食入期（4～5月）に下記の薬剤を散布または、塗布する。
 - ・ [ガットサイドS](#) 1 B
 【1.5倍 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで散布 3～5月(産卵初期)／1回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

または

【1（原液）～1.5倍 樹幹の地際部から約1.5mの高さまで塗布3～5月（産卵初期）／1回】

・ [サッチューコートSセット](#) 1 B

【15倍 樹幹部及び主枝に散布または塗布 産卵時期（90日）／1回】

コウモリガ

留意事項

- 1 薬液が葉にかからないようにする（薬害）。
- 2 ガットサイドSとサッチューコートSセット、トラサイドA乳剤は同一成分MEPを含むため、樹幹処理は合計1回まで。

防除方法

- 1 4月～5月頃雑草を刈り取って園内を清潔にする。
- 2 食入孔に針金などをさし込んで、幼虫を殺す。
- 3 5月～6月上旬に下記の薬剤を散布または、塗布する。

・ [ガットサイドS](#) 1 B

【2倍 樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布 裂果前（90日）／1回】 または

【1（原液）～1.5倍 樹幹の地際部から約1.5～2mの高さまでの主幹及び主枝に散布 裂果前（90日）／1回】

・ [サッチューコートSセット](#) 1 B

【15倍 樹幹部及び主枝に散布または塗布 幼虫食入期直前～幼虫食入初期（90日）／1回】

カツラマルカイガラムシ

留意事項

- 1 樹高を低くして（カットバック）薬剤散布をしやすいようにする。
- 2 冬期防除に重点を置く。
- 3 本種が多発すると枝葉が褐色となり、枯死する。

防除方法

- 1 12月中～下旬に下記の薬剤を散布する。

・ [機械油乳剤95](#) UNM 【落葉果樹 カイガラムシ類 12～14倍 —／—】

- 2 幼虫発生期（第1世代：6月下旬～7月中旬、第2世代：9月中旬～10月中旬）に下記の薬剤を散布する。

・ [エルサン乳剤 劇](#) 1 B 【カツラマルカイガラムシ若齢幼虫 1,000倍 14日／4回】

・ [アプロード水和剤](#) 1 6 【カイガラムシ類幼虫 1,000倍 7日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

カミキリムシ類

留意事項

- 1 薬液が葉にかからないようにする(薬害)。
- 2 ガットサイドSとサッチューコートSセット、トラサイドA乳剤は同一成分MEPを含むため、樹幹処理は合計1回まで。

防除方法

- 1 カミキリムシ類の産卵期～幼虫発生期(6～7月)に下記の薬剤を散布または塗布する。
 - ・ [トラサイドA乳剤](#) 1 B 【100～200倍 樹幹部に十分散布 裂果前(14日)／1回】
 - ・ [サッチューコートSセット](#) 1 B
 【50倍 樹幹部及び主枝に散布または塗布 産卵時期(60日)／1回】
 - ・ [ロビンフッド](#) 3 A
 【果樹類 カミキリムシ類 樹幹・樹枝の食入孔にノズルを差し込み噴射 前日／5回】

クリタマバチ

防除方法

- 1 天敵寄生蜂(チュウゴクオナガコバチ)を放飼する。
- 2 天敵寄生蜂(チュウゴクオナガコバチ)は3～4月に羽化するので、せん定枝を羽化時期まで残して寄生蜂を保護する。
- 3 せん定を行い樹勢を強く保つ。
- 4 成虫発生期(6月下旬～7月中旬)に下記の薬剤を散布する。
 - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【1,000～2,000倍 羽化脱出期(14日)／5回】
 - ・ [マブリック水和剤20](#) 劇 3 A 【2,000倍 7日／2回】

注1: 同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2: 異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。